

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた地域の中で、利用者がその人らしく生活していくための理念について、職員全員で話し合い、作成している。		職員にアンケートを実施し、そよかぜユニットの基本理念を作成した。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、そよかぜユニットの基本理念をもとに、毎日の様々な場面に理念を照らし合わせて取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	入居前の見学及び重要事項の説明時に、利用者が当ホームに入居後も、地域の一員として、穏やかに楽しく生活していただくための、取り組み理念を運営推進会議等」で説明している。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	広報活動は隣接の藤中医院で「パンフレット、白光の家便り等」を掲示し、また自治会連携をとり、ボランティアを招いたり、地域の催しに参加している。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	昨年は、獅子舞祭りや猪の子祭り(地域子供会主催)等に参加し、地域の人々との交流を深めている。		本年も、積極的に地域行事への参加を目指す。

グループホーム 白光の家(そよかぜ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>ボランティア実施後の、ボランティアを交えた反省会のなかで時間をとり、介護方法・質問等に答えている。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>・前回の外部評価の指導・改善点を謙虚に受け止め、職員一丸となり更なるサービスの質の向上に努めてきました。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議を2ヶ月に1回実施しているが、会議で参考になる意見等は、サービス担当者会議で話し合い、サービスの向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>更新申請等を通じて、運営面・法的解釈等の疑問点を、広島市介護保険課に訪問または電話連絡で指導していただいている。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>平成20年度地域密着型サービス事業所の集団指導会に参加し、その内容をホーム内で研修を実施した。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待について、そよかぜユニット職員全員の研修会を予定している。(平成21年2月10日実施予定)</p>		

グループホーム 白光の家(そよかせ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居前・退去時には、契約書・重要事項の内容説明を入居者と家族に行い、同意を得ている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>相談や苦情を受け入れるホーム側の窓口及び職員を、利用者分かりやすく掲示し、意見を取り入れる努力をしている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ご家族向けの新聞を発行し、ホーム内での利用者の様子、暮らしぶりを定期的に報告している。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>相談や苦情を受け入れるホーム側の窓口及び職員を、利用者分かりやすく掲示し、意見を取り入れる努力をしている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回のユニット会議時に、職員から意見や提案を聞く機会を設けている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>モーニングケア・デイケア・ナイトケアが柔軟に対応できるよう、勤務の調整に努めている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者によりロケーションダメージを与えないよう、職員の移動は実施しない。また、職員の離職がないよう、給与・福利厚生等の向上に努めている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員が日常的に学ぶことをホームとして推進しており、外部スーパーバイザーから、助言、指導、文献の提供、スーパーバイズの提供をしていただいている。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>社協主宰等の研修会に、職員を積極的に参加させ、研修を通じて相互の情報交換、交流の機会を作ってもらう。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>個人面談を行い、意見や業務上の悩みの聴取をしている。また、職員の休憩の場所は、職員が十分にくつろげ、心身を休めるのに適した設備を有している。</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員が持てるよう、研修等への参加を、積極的に実施している。</p>		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ホーム独自のフェイスシートを使い、入居者一人ひとりの状態像、生活特性(生活歴、ライフスタイル等)を把握し、これによって、アセスメントを行い、課題を明らかにしている。</p>		
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ホーム独自のフェイスシートを使い、家族の求めていることを把握し、これによって、アセスメントを行い、課題を明らかにしている。</p>		

グループホーム 白光の家(そよかぜ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホームへの入居が、利用者または家族にとって本当に必要な支援なのか、担当ケアマネージャーとケアプランを見直し等を行っている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に見学に来て頂いている。		・体験入所して頂く機会を作る。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	その方の得意な事、能力に目をむけ、家事全般を共にしている中で、職員は感謝の気持ちを伝え、又、学んでいる。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族に対し、常に自身を高めるような言葉かけを行い、クリスマス会等の行事で、本人を支援する場面作りや一緒に喜ぶ機会を作っている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の良い面をお話したり、楽しく暮らしておられる事実を中心に話すと、とても安心されて帰られる。		・行事の案内を出して、本人と家族の交流を多くする。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出の機会に、馴染みの場所に行けるようにしている。		・昔の友達が来られた場合は、書き止めたりして、継続して関係を保てるよう支援していきたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	趣味・娯楽活動をつうじて、仲の良い入居者同士が過ごせる配慮や、孤立しがちな入居者が交わる機会を作っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている			・退所後も定期的に電話をかけて状況を把握する。
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ホーム独自のフェイスシートのシートを活用している。		・利用者の意向をアンケート調査する。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	1人ひとりの生活歴、馴染みの生活を心掛け、あるときは草餅を作ったり、生け花、折り紙、習字などの趣味をひろって行っている。		・ケアカンファレンスを設け、職員全員が把握して実施出来るようにする。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	趣味、趣向を取り入れ、レクリエーションに反映し、一日の過ごし方を心豊かに過ごしてい頂くよう努力している。		・研修会を開き、職員の判断力と観察力を向上させる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人のニーズをひろい、ケアのあり方、3ヶ月毎に本人や家族、介護士と話し合いプランを作成している。		・入所してからのプランに家族からの意見をもっと取り入れる。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しを行ってプランを立てている。期間に応じて行っている。転倒などの事故の場合、関係者と話し合いプランを立て直し、家族に同意を得ている。		

グループホーム 白光の家(そよかぜ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別には介護日誌を全員分毎日記入し、流れをくみ取り、情報を共有しながら、介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	日々の日勤職員配置をできるだけ4名にし、フリーの職員を1名配置し、行政への提出書類、薬、診察、本人の買い物等、家族が対応できない要望を支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議等を通じて、地域資源の協力を依頼している。昨年は、大正琴、婦人コーラスグループ等様々なボランティアに訪訪していただいた。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	出張理・美容サービス、介護タクシー、歯科往診。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本年度は、運営推進会議のメンバーに包括支援センター職員にはいっていただき、権利擁護等で意見を交わし、協働している。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	設立者の協力医が、かかりつけ医と連絡調整している。また、協力医が、家族との連絡、報告、相談も行っている。週2回、適宜に回診している。		

グループホーム 白光の家(そよかせ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	利用者の症状に応じて、瀬野川病院に専門医に、利用者の症状に応じて診察、助言をうけられるよう支援している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	隣接の協力医院の看護師により、毎日利用者の健康チェックを行う。また、投薬等、医師の処方に基づき行う。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	早期退院に向けて利用者を励まし、症状については常に医師・相談員・家族と密にとっている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアの指針を、家族・協力医院と話し合い作成し、ご家族に説明している。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在、終末期の利用者は入居されていないが、ターミナルケアの実践ができるよう、協力医院のドクターから、指導していただいている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居者一人ひとりがそれまでの暮らしや生き方(個性)を大切にするため、これまでの生活習慣を当ホームでも継続できるよう、事前面接でかなりの時間をさき、聞き取りを導入している。宗教・趣味など多岐にわたる。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p><b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>			
<p>1.その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>マニュアルを整備し、排泄の誘導・介助や確認、失禁の対応等は、不安や羞恥心、プライバシーに配慮して行っている。(一例:トイレ誘導の声かけは、他の入居者に分からない様におこなっている。)</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>・おやつを何種類か用意してご利用者に選んでいただく。 ・レクの内容をご利用者みなで相談して決める。 また独自のアセスメントシートをもちい、利用者にごとの共同生活への参加内容をケアプランに取り込んでいる。</p>	<p>・利用者が計画した行事を設ける。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>日々時間を決めるということは避けている。1人ひとりのペースを心がけている。本年度は、リフト付の送迎車両を購入し、利用者の希望に沿った外出行事を計画した。</p>	
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>ヘアバンド、帽子など習慣を生かし、そのまま受け入れ継続しておしゃれしている。外出時はスカーフなどしたりおしゃれする人もいる。2ヶ月1回出張理美容のサービスを実施。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>週に1回は皆の意見を聞いて計画書を立て、昼食会を設けている。一緒に出来る人は調理、片付けは毎日行っている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>今のところたばこの希望者はいない。好みのくだもの、お菓子等は、購入していただいている。</p>	

グループホーム 白光の家(そよかぜ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>排泄は、時間毎と尿意、便意の訴えは随時誘導し、時間記載している。なるべくオムツの人オムツ排泄を心がけている。</p>		<p>・便意が一定していない人に排便時間の習慣を付けるようにする。</p>
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>現在、日中に限り、本人の希望で入浴できるシステムで対応している。毎日入浴される利用者もいる。(回数は決めていない)</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>昼寝の習慣の人は、プランに取り入れ入所後も昼寝の時間としている。就寝時間は本人の生活習慣に合わせて行っている。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>日々の生活の中で自分で出来る事は、して頂いている。活花、花の水やり、配膳、片付け、掃除など、ケアプランに基づき実施している。(無理強いはいしない)</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>希望があれば家族の了解のもと、本人にお金の管理をしてもらい、希望に応じて買い物に同行する。(領収書は家族に後で渡す)</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>近くを晴れた日には散歩にお連れしたりして、戸外に出て日光浴をかねて歩き、野の花などを観賞する。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>自動車ですぐに行けないところへはお連れする観劇、食事会など。</p>		<p>・利用者の希望に沿った、外出行事を増やす。</p>

グループホーム 白光の家(そよかせ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望をできるだけかなえられるよう、援助している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来訪者と本人にお茶、お菓子を出して接待等を実施している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員教育を徹底し、拘束ゼロを目指し、ケアを実践している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にセンサーを取り付け、離設対応している。 また、全ての部屋に鍵はかけない。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に職員間で声かけしながら、ご利用者の様子や所在を確認している。居室で過ごされている場合は、プライバシーに配慮しながら、安全確認を実施。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ハサミ、包丁などは特定の場所へ保管するようにしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒 - 段差の位置、その人のくせを知る。 誤嚥 - キザミ食、とろみをつけることで対応。 誤薬 - 誤薬の場合は報告書に書き、徹底して原因をつきとめる。 行方不明 - 玄関センサー対応。 火災 - 避難訓練をして理解。		・転倒の可能性のある人は、全てと思って、皆で見守りを強化している。 ・居室の私物の配置や段差のチェックの実施。

グループホーム 白光の家(そよかせ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている			・吸引器の取り扱いや窒息などの場合、急変時の報告なども含めて話し合う。 ・応急手当を皆で周知する。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の火災・防災訓練を通じて、利用者が安全に避難できるよう取り組んでいる。また、ホーム裏手の通路を舗装し、手すりを設置。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	個別ケアプランに、ご利用者に起こりえるリスクをかけた、説明・対策を行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々のバイタルチェック、定期的な血液検査、様子観察等により、入居者の体調の変化や異変の早期発見に努めている。また、体調の変化が認められた場合、主治医・協力医院に連絡している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の名前とご利用者がどういった薬を内服しているか、また副作用についてもケアカンファレンスで公表している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の原因、心身のバランスを崩すことは認識している。1日水分量1000～1500ml摂取していただき、食事は専門業者の管理の元、食物繊維を充分摂取できるメニューで構成されている。また、体を動かすよう常時働きかけている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後必ず口腔ケア、入れ歯洗浄をしている。		

グループホーム 白光の家(そよかぜ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養 - カロリー計算 / 日のある献立を之に食事提供。 水分 - 1日を通して朝10:00昼15:00のお茶と食事を含め合計1500ccの水分摂取に努めている。また、深夜時は、居室に水筒等にお茶を入れて対応している。運動後はその都度摂取していただく。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ - 入所者全員ワクチン摂取。 疥癬 - 1日/wシャツ交換、布団干し。 MRSA - お絞、食器、キッチンハイター30分つける。入浴は最後にする。 ノロウイルス - 廊下の手すり、トイレの手すりはハイターで清拭。		・職員研修を定期的の実施した。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板は、常に乾燥状態とし、肉、野菜は区別して2枚用意している。食器は、洗浄後必ず乾燥機で乾燥。又、まな板・食器等適宜ハイター消毒実施。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	違和感や威圧感を感じさせず、入居者や家族が入りやすく、近隣の住民も訪ねやすい開放感がある設計にしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の中で音、声に敏感で興奮する人があり、特に注意している。季節の花を常時生けて季節感を味わって頂いている。また、調度や設備、物品や装飾も、普通の家庭であるもので揃えている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の座る位置は、大体決まっている。一人一人の身長に合わせ、椅子に座った状態での足置き台を用意している。		

グループホーム 白光の家(そよかせ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた家具や生活用品、装飾品などの入居者にとってなじみのある品の持込をお願いし、その方の部屋らしさを作っている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	共用部は、24時間換気をしており、各居室にはエアコンを設置し、温度設定は、利用者に応じてこまめにしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	認知症の身体面の機能の特徴を理解し、トイレや部屋の案内、バリアフリー、エレベーターの設置。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室には、使い慣れた家具や生活用品、装飾品など入居者にとってなじみのある品の持込をお願いし、その方の部屋らしさをつくり、混乱を防ぎ、自立して暮らせるよう工夫している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関周りでの園芸、草取りなどを実施。また、今年度は、1階、2階部分にウッドデッキテラスを設置し、開放感あふれる中、茶話会やバーベキュー等を実施している。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム 白光の家(そよかぜ)

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)